

問3 現在、地域が抱える高齢者の課題は様々です。年1回、長寿をお祝いするだけでなく、町内会の実情に応じて、見守りや健康づくりなど高齢者福祉の充実に資する地域活動も補助対象とする仕組みを検討しています。

あなたは補助金を敬老事業以外の高齢者福祉の用途にも使えるようにすることについてどう思いますか。(1, 2, 3から一つ選んで○)

- 1 敬老事業以外の高齢者福祉の用途にも使えるようにして欲しい→どのような補助メニューが必要か
- 2 現行がよい
- 3 その他

3-1 敬老事業以外の高齢者福祉の用途にも使えるようにして欲しい

→どのような補助メニューが必要か

■ 上述の「敬老の日だからこそお祝い」と「記念品を届けることによる安否確認」という点から、敬老の日に特化した敬老事業も必要だと思う。用途・回数を限定せず、年間を通じて活用できる補助メニューが良い。年間通じた事業としては、当事者の健康づくりや成年後見制度の講座のほか、地域全体で認知症のサポーター養成など支援視点の事業も含めてもらいたい。補助メニューの指標としては、【高齢者の健康に資する】

【高齢者の幸福度に資する】【高齢者支援の理解に資する】【世代間交流・世代間理解に資する】もの。

■ 見守り,ふれあいサロン (健康作り, 交流等の活性化)

■ 公共交通をもっと活用して、年寄りが買い物や花見地域のイベント等に気軽に参加できるように知恵を働かせるべきである。現在、既に見守り・健康作り・防災・認知症等各関係課で取り組んでいる事と思う。庁内の二重行政にならないよう内容のある運営を望む。既にかいたが、敬老事業が町内に他部のメイン事業になっている。これが縮小・廃止になれば町内活動の停滞につながる。「今年も元気に会えたね」「来年も元気で来ようね!」と交わすあいさつを聞くとやって良かったと心から思う。来年もぜひ喜んで貰いたいと心から思う。

■ 1人暮らしの高齢者の見守り (1ヶ月に2回, 2週間に1回程度), 認知症予備検査 (本人は認めない為, 病院受診を拒否するので)

■ 防災

■ 見守り

■ 町内会においても、社会福祉協議会の事業で行っている見守りに力を入れることが必要と考える。これを発展させ防災における災害弱者の安全を確保していく。

■ 地域での防犯も含め、見守り等あれば自宅での生活継続においても、地域で暮らす事につながると考え、防犯カメラを推進してほしい。サロン等開催しても何かもらえとか興味のあるだけでは、集まりが悪く、現在もコロナ感染予防としても集まる事も難しくなっている。オンライン面接で画面を通して顔は見えるが、難聴やタブレットを通してだと聞き取りにくい為、聞き取りやすい器具購入したいが、中々資金持ち出しで準備していくのは運営上難しい。

■ 見守り, 健康づくり, 認知症

■ 高齢者の日常生活の支援。免許返納者への公共交通, タクシー等の支援, 高齢者の免許返納を促す。地域で行われる, 様々な活動の担い手, 後継者の育成のための予算, サロン事業, 認知カフェ, 子ども食堂 (親子

交流) 高齢者を地域全体で支える、地域包括ケアシステムの構築の推進、見守り事業、居場所作り。防災での個別避難計画の推進。

- どのメニューもよいと思いますが、参加することに抵抗がある。例えば場所までの足、他人様にお世話になるようではと考えます。
- 百歳体操で健康づくり、交流などが行われているが、この様な事に補助金をもう少し使ってはどうか。
- 皆が集まる場所をつくるべき
- 認知症対策
- 世代間交流の場を増やし、高齢者の方々に役割を担っていただくことで、生きがいを感じられるようなメニューの考案をお願い出来ればと思います。子供世代と高齢者世代が共に時間を共有できる場の設定を増す等。
- 健康づくりに関するものをサロン等で行っているが、楽しんで行える事業を探し、実施できると良い。高校生、中学生、小学生と交流を増やせればと思う。
- 自治会による、高齢者の居場所づくりは大切だと思います。身近な見守り、健康づくり等も大切です(自治会主催のサロンなど)。年一回の敬老会事業は午前中式典(行政・民生・児童委員・町内会役員・女性会・老人クラブ等横の連携の場になっている)。式典後、保育所・幼稚園・高校などの芸能協力もあり、子育て支援にもつながっている。年一回の出会いを楽しみにしている。普段あえない人達の場になっていると思う。交通手段が課題になる。若い人達のイベント参加が希薄になっており、今以上に魅力がある会になる様願っている。(若い人達にもイベントの企画に参加できる様に努力すること)
- 各地域の公民館をもっと活用してはどうか。年に1~2回は世代を超えた交流会を開催する。
- 各々の地域で高齢者の見守り活動をし、町内会長・民生委員で情報を共有する場が必要。敬老会はしなくても、記念品配布を通じて、町内会長・民生委員が高齢者の情報を把握できる。
- 地域で見守り(高齢者・認知症も含めた)の仕組みづくりを行い、これに必要な費用を補助。健康づくりを目的とした百歳体操など地域で取り組みやすい内容の検討→活性化。サロンの(高齢者向け)活動を活発を盛り上げていくために地域への補助
- 高齢者が気軽な気持ちで集まり、健康寿命の延伸を念頭に、有意義な交流の場、学べる場、学べる機会を与えることが、今後における高齢社会への対応と考えます。
- 各団体の実情や必要性・ニーズに応じて、創意工夫しながら、高齢者が生きがいをもって自分らしい生き方ができるよう支援する活動
- 健康づくり(体操)
- 見守り 世代間交流 他サロン交流の推進。
- 主旨は大変よく理解出来ます。しかし、年間を通して行事・計画を行ってゆくのも実際問題として簡単ではない事を実感しております。地区によって役員、スタッフの方が協力的な所もあると思いますが、会合持っても人まかせ、忙しいので余計な事はしたくないと考える人が多いです。この行事もみんないい事なので賛同はして頂けますが、それ以上の事については、ひとまかせ。実施責任者1人になにもかも負担がかかる。課題。社会福祉協議会の方からも、内容的にはほぼ同様な年間を通して又は、75才以上の方へ、サロンを地区ごとに計画する様、毎年、案内も来ます。こちらは自分たちの準備するお金で、ワンパターンにならない様、計画を立ててやっていますが、大方の方は、いずれから補助金が出ているので、しっかりやって欲しいと思われる方も多い様です。補助金は特にどこからも出ておりません。

- 年1回お祝いに支出するより、比較的元気な高齢者が地域の集会所に定期的集うことに支出する方が、健康づくり、自立支援、見守り等の観点から有効かと思う。ただ補助金申請・報告のわずらわしさがあるので、その点は簡易にしてほしい。例：敬老対象者×単価を各区長単位に補助する
- 今回高齢者2人世帯のPCR検査が必要と思われる接触があり、施設職員による、三原市PCRセンターまでの無償送迎等を行いました。そういった現状にあった補助メニューをリアルタイムで実施できれば良いと思います。
- 1人住まいの高齢者の見守り、声かけ、食事サポート etc が支援できればと思います。
- 防災時への対応支援体制作り
- 敬老者の定期的サロン（体操、交流、料理作り等）。取りまとめ、運営が負担。補助金を受けると報告、規約等が負担。実施場所への移動ができない（個人）
- 予算を有効に使うことは賛成するが、有効性評価に不公平がない様にしてほしい。近くの人、特定の地区、声の大きいところに少し、時には片寄るとも理解するが、長期的視点で公平・平等を担保してもらいたい。特に市長は「誰1人とり残さない」と言っていることをもっと実践し又、特に防災の組み方はソフト面で不満。
- 75歳はまだまだ若い。75～後期何々と言われたくない。高齢者には間違いないが、前期・後期の言い方は、人を何と思っているのか。新聞記事でも良く見るのに、改善されないのが、この国のおかしいところ
- 見守り 防災 認知症
- ゴミ出し補助による見守り（サポートしていただく方の補助金）
- 学校の行事に参加機会を年2～3回実施
- 高齢者だから何もできないと言う方が多く、社会参加をもっとしてほしい。変えていって、若い人の役に立つ高齢者になるべき
- 買い物、病院通い等、車に乗れない生活保護の対象者さんは、少しでもタクシー代等使えないかと思う
- 現在の敬老会実施による補助金を減額するのではなし、地域活性・防災と合せて補助事業を追加する
- 見守り隊のような組織が必要と思う。民生委員との協力関係を構築する。
- 健康づくり、コミュニケーション等のサロンが有る。このサロンにも使えれば幸い。敬老事業、高齢者事業等関係あれば何にでも使用出来る様にしてほしい。
- 今後、見守り、健康づくり（体操）、世代間交流、防災、認知症、すべての案件が必要と思います。特に認知症は大きな課題と思います。
- 生涯学習講座（生け花・あみもの・料理等） 100才体操等 軽運動 ウォーキング大会 市内や町内の史跡めぐり(バス&徒歩)
- 高齢者と関係者に聞いて下さい。旧三原ばかりイベント等されているイメージがあります。そのイベント費用なども見なおされ、全体的にバランスを考えてみても良いのでは？
- 町内で老人クラブを作って活動しています。町内会で10000円クラブに補助しています。老人クラブの方は補助金をまわせますか？
- 買い物を行きたい時に行けたりできるようにする
- 福祉事業所との協力
- 地元小学生との交流会。送迎バスを出して、小学生学習発表会への参加してもらおう
- 健康づくり（体操）
- 高齢の方（特に一人暮らし）の人が、安心して毎日を過ごせるように、見守りを強化してあげてほしい。
- 見守り、防災等。日常生活に直結する様なもの。

- 高齢者福祉の用途にも使えるようにすることは大いに賛成です（防災も含む）。そこで、自治会活動の中の高齢者対策活動への支援（補助金、ご助言など）をお願いしたい。我々、団地では高齢者対策の一環として、組織体制及び各種行事の見直しを図り、「半減体制」を実施。その上で、さらに高齢者（病弱者含む）への支援を念頭に社協のご指導の下、「見守り隊」「網戸障子の張り替え隊」等、5チームを編成し、社協からの補助金を得ている。また、コミュニティ助成事業（宝くじ）採択（200万円）により、今後、自治会館を常設サロン、カラフルテント等を活用しての移動型サロン（カフェテラス）、さらにはフリーマーケットも計画（模索）中である。
- 市民体育大会も準備、後片付け、選手選出など現状は大変な作業となっていることを踏まえ、時代に合わせるべき。要は、廃止し、防災・福祉に重点を移されたい。
- 地域のコミュニティセンターは遠く行きにくいので、町内会の公民館でよく知っている人達でサロン活動、体操、レクレーションなどをし、補助対象としてはどうか。我が町内会では、60～80代の夫婦で集まりサロン活動をしています。
- ①敬老会②その他 敬老会の補助は残すべきであるが、町内会等の実情に応じて、その趣旨で合致するものは補助すべき。（介護予防、健康づくり）
- 今後高齢化はより進んでいきます。高齢者は健康を保ち、仲間づくりを多くもてる機会を奨励し、敬老補助金を供出する必要があると思います。地域のサロン活動にもっと供出するべきと考えます。
- 見守り、健康づくり（体操）、世代間交流、防災
- 年一度の会食中心の敬老事業だけでなく、毎月のサロンの活動にも補助金を使えるようにしてほしい。例えば、有料出前講座、詐欺防止、認知症予防、健康維持体操ストレッチ e t c。又、高齢者中心の行事に、町内会の子供や若い人も参加を呼びかけ輪を広げていきたい。
- 健康づくり。敬老よりも、常に目標や夢に向かう人生を目指したい。
- 見守りを兼ねたサロン等
- 見守り、孤独死、認知症への対策
- 健康づくり、防災
- 健康づくり、地域とのコミュニケーション作り
- 健康、認知症予防
- 孤立しない見守り、生活の不自由な点の解消、地域の助け合いが一番。
- 見守り、世代間交流
- 見守り、世代間交流
- 健康づくり
- 在宅医療されている方には、お祝いも必要。
- 地域の行事等に参加できるように声かけをすると共に、敬老会事業以外にコミュニケーション（世代間交流を含む）ができる場を提供する。
- 健康づくり体操教室、サロン活動拡充、認知症カフェ拡充、おせち配る活動拡充
- 見守り、認知症
- 健康作り
- 健康づくり
- 高齢者の見守りの充実
- 世代間交流（見守りに通じるように）、防災、認知症対策
- 健康造り等で広く活用を希望します。

- 高齢者の日常生活の支援
- 免許返納者への公共交通、タクシー等の支援、高齢者の免許返納を促す。
- サロン事業・認知症カフェ
- 見守り、居場所づくり、防災での個別避難計画の推進
- 地域で行う様々な活動の担い手、後継者育成のための予算"
- 高齢者の生きがい、健康作りのため、シニア健康作りセンター（仮称）の設置や、いきいきサロン支援が望ましい、サロンの支援は、支援員を配置して、プログラムや活動を補助できる制度が必要
- 敬老会の実施、個別の記念品以外でも入所者の健康増進や余暇活動に資する物品などの補助としたい。
- 例示の健康づくり（体操、認知症予防）や防災教室、見守りなど考えられるが、高齢者の要望も聴取すべきと考えます。
- 見守り
- 見守り事業の充実、報酬
- 健康体操への補助
- 高齢者の各種講演会、講習会"
- 見守り、お役立ち券複数枚発行（何かしてほしい事の代行券）？
- 見守り、健康づくり、認知症対策、防災組織づくり
- 見守りが必要な高齢者宅への訪問を定期的に行う。
- 見守り
- 防災
- 見守り
- 健康づくり、高齢者を対象にした町内会行事など
- 費用を高齢者の負担の軽減に利用してほしい。自治的にはゴミだしの負担！遠いゴミステーションまで！高齢者ばかりなのに公民館活動で草刈り、溝の掃除まで！おまけに参加できないとお金まで取る！こういった事に補助金として利用して欲しい。
- 孤立予防の事業、認知症の理解促進の事業
- 健康作り
- 高齢者世帯にの増加により日常の見守り、災害危険時の支援体制等に費用を使った方が良いと考える
- 健康づくり、世代間交流
- 地域では、独居老人が多いので、生活用品の為の支援金とか施設での生活支援金に充てるのも良いと思います。
- 交流が苦手な高齢者へのフォローが必要だと感じます。社交的な方はサロン活動に参加しますか、交流が苦手な方は孤立している方もいらっしゃいます。公共のサービスなどを利用せずに、不自由な体で1人で買い物に行ったり、全く掃除ができない方などいらっしゃいます。近場に親族の方がいる方もいらっしゃれば、盆正月でさえ親族が誰も来ない家もあります。
- 地域のサロン、見守り、防災などの活動
- 見守りシステム（デジタル活用）
- サロンでのコミュニティ事業や健康維持事業
- 遠隔での健康相談や健診
- 世代間交流
- 健康づくり、防災等に補助金を使った方が良い

- 保健師さんによる定期的な訪問事業
- 生活補助など、ゴミ出しも分別が難しい様です。
- 老人ホームを運営していますが、老人ホームの入居者は敬老会事業は大変喜ばれています。そのため、今後補助事業の見直しが行われたとしても、何らかの形でホーム内の敬老祝賀会は継続して行きたいと考えています。しかしながら、三原市として敬老会補助事業の見直しは今後は必要なことと思います。補助メニューとして祝賀会への補助の継続と地域での健康寿命へのサロンなどの取組へも補助を出すこととして、何方か一つの選択又は上限を決めてはどうでしょうか。
- 世代間交流
- 健康づくり
- 過疎地での車がない人の対応と買い物
- 介護サービスを受けるまでにない人の認知予防の対策
- トイレや公園の階段の手すりの増加"
- 健康促進
- 健康づくり
- 個人情報保護の為に把握がしづらい。隠したがる人の把握は出来ない。民生委員がおしゃべりで他人に情報をもらすなど、不快な思いをした人もいる。ボランティアでは個人を守る事はできません。きちんと雇用すべきです。そして、地域毎に行っている地域サロンの充実を図る為、専門の担当者を配置することや、二人に一人癌になる時代にあった施設の充実をはかるべきです。福祉に優しい町作りを目標に、療養や最後の時間を過ごす場として、居心地のよい生活環境を提供できると思います。"
- 見守り活動補助金、健康づくり（百歳体操、グランドゴルフ等）補助金、
- 世代間交流の中で物作りや花、野菜作りなどで経験が活かせる場面が多くなるように。それが地域の美化運動にもつながっていければと思います。
- 高齢者の健康と安全に使用し、サロンなどにお金を投資すべきである。"
- 老人クラブの活動補助
- 健康づくりへの活動補助（健康体操、卓球、屋外運動など）
- 高齢者サロンなどへの補助（食事提供、茶菓子提供など）"
- 一人暮らし家庭の見守り
- 健康づくり（ウォーキング）等
- 若い年代が少なく、行事を持つのが難しく成りつつある。
- 地域活動、交流、等
- 詐欺への対応
- コロナ対策を考えた上で、繋がりが持てる場。
- 健康づくり体操、防犯カメラ設置
- 災害時の援助
- 一人暮らしの戸数も増えており、年寄り宅の見守り活動も大切と感じる。
- 普段は電話番号など「個人情報」と言われるが、災害時に(在宅か、留守か?)確認する方法として地域の責任者(町内会長等)に TEL 番号の情報が欲しい。
- デマンドタクシーの充実
- 見守り隊への補助金をお願いします。

- 社会福祉協議会等が見守りや健康づくりなどで『ふれあいサロン』補助事業を実施されているが、年間6回以上等実施要件が厳しく町内会で年1回～2回程度実施では対象にならない。よって、見守りや健康づくりを年に1回程度実施する場合補助していただきたい。高齢者が集いお互いに見守りをする場合、昼食弁当代程度の補助がある仕組みなら担い手がいなくてもお互いを見守りや健康づくり又健康福祉に関する講座に取り組みやすいと思います。
- ふれあいサロン お茶会 100歳体操 趣味の会
- 1人暮らしの防災システム
- 健康作りに力をいれてほしい
- 見守り活動
- 健康維持
- 介護補助
- 必要とされている所に使うべき
- 高齢化社会の問題解決のための、地域振興補助に転用する（とくし丸等の買い物補助や、宅配弁当など）
- 健康作りや認知症防止などの取り組みをお願いします
- 定期訪問をする見守り。不安がある世帯への補助。
- 世代間交流
- 地域の高齢者支援活動や認知症予防の講習会など
- 買い物、住居周辺の草刈り作業などが困難な高齢者単独世帯への人的な支援
- 高齢者世帯や一人暮らしの見守りや防災支援事業
- 健康づくり体操とか認知症予防などの話し合い。
- それぞれの地域で活動内容も違うと思うので、あまり形にとらわれない融通性がきく方が良い。
- 市の補助金となると、その恩恵が対象者に公平に行き渡ることが求められるはずです。高齢になるほど健康面や日常生活面での個人差が大きく、そのなかで最大公約数的に等しく行き渡るもので、すべての高齢者が必要なものとなれば、防災用グッズ（非常持ち出し袋のようなもの）が適当ではないでしょうか。
- 見守り建康づくり
- 地区での体操、脳トレ活動
- 交流会
- 見守り、物資購入の支援。
- 健康意識を向上できる教室の開催。病院のソーシャルワーカーや介護支援専門員などに講師をお願いしたい。
- 見守り
- 高齢者の医療制度の充実
- 見守り、防災、認知症対策に関して、個別の取り組みが必要。高齢者と言っても、個々に状況は違う。個々に対応するメニューが大切と思う。
- 健康管理 世代間交流会
- 自分で出掛けられない人のサポート家に行ってもでてこない。など。
- 防災
- 継続的な見守りを地域の組織として作って行く。参加しやすいサークルを作って行く。行ってみたいと思う行事を組み入れていく。
- 一人住まいの見守りを、地区で声かけとか

- 見守り、サロン
- 認知症の対応補助
- 見守り活動
- 見守、健康づくり

3-2 現行がよい

- これまで行ってきたので現状維持でよいと思う
- 高齢者を度々参加させる事業を実施することは、負担が大きく高齢者の参加も少ない。現状の各種イベント（サロン・高齢者の講座等）の実施で十分と考える。但し、近年のコロナ禍、催しに参加する方の準備、練習等がどの程度可能か先行きの見通しが見つからない。
- 敬老会の本来の目的を踏襲すべきだから
- 上記の仕組みだと、高齢者全員へ行き届きにくい。記念品配布だと、全員に届くので現行がよい。
- 老人クラブとサロンへの補助を行っていて、健康づくり、認知症等の活動を開催している
- 高齢者福祉事業で組んだ予算は高齢事業に充てるべきで、敬老事業以外の用途に使用する場合には、そのための事業費を予算取りすべきである
- 当施設では敬老事業を行う際、施設負担金の軽減が出来る事と施設の年間行事に組み込んであり、利用者様が楽しみにされている為式は簡素化してでも実施した方がよい。今まで世話をしていた中で、お年寄りのうれしそうな顔が何とも言えない。
- 敬老会を実施するには、多大な労力が必要です。会の計画に当たっては、実行委員会の開催（4～5回）。町内会長さん、福祉推進委員さん、民生児童委員さん、女性会さんの協力のもと実施しています。敬老会では、式典と演芸を実施していますが、演芸では、保育所、幼稚園、小学校、高等学校等の皆さんも協力して参加してくれています。記念品配布に併せ、敬老者へのメッセージ（しおり）等も作ってもらいます。このように、子どもたちも祝福していく気持ちも育っている様に思います。この様に大変ではありますが、町民あげて敬老者を祝福しているので、今後も続けて行けたらと思います。
- 本地区においては実行委員会に各種団体の参加をお願いし、町内会の一人一人の見守りを実施した上で開催している。年に一回とはいえ、確認し自分の地域おける安心を届ける事が出来る。町内会長、福祉推進員の連携も取れ、大事な福祉活動と考えている。行政からの正しい情報が入り、見守りが出来ることも大きいと思っている。
- 準備段階での交流、地区内交流等、住民・世代間の交流について
- 若い人のお世話をしてくださる人がいない。ボランティアの人も少なくなり、今のやり方で続けて行きたいと思えます。
- さまざまなことを行う受け皿となる組織がない。敬老会は自治会員の親睦会の意味あいの方が深い
- これまで敬老会を実施して来ました。楽しみにされている方も多くおられます。お世話する人達の負担、出席者の減少、担い手が少ない等、色々ありますが、「記念品の配布」を含めて実施した方がよい。
- 国民の祝日であり、先輩高齢者に対し祝意を表すことは理に叶っている。中山間地域に定着している事業として、敬老式、懇親会の開催は高齢者の交流の場としても有意義である。他方資料の通り、参加者は微減少傾向にあり、今後参加率の限度を定め見直しの時期が必要であるが、地域ボランティア活動で成り立つ事業は可能な限り継続すべきである。
- 目標としているから
- すでに定例化しているし、年に1回は長寿の祝、見守りなど地域活動として決めておくことが大切。
- 町内の敬老者に行事の内容が浸透している
- 自分の意思で行動できる年代の方はまだ大丈夫、人の世話にはならないという気持ちの方は多いと思えます。しかしながら、少しずつ体の不調を認識してくるに従い、外に出ることも、人と話すこともおっくうになっていくと思われまます。自分が若いころ、お世話をしていた敬老会だけど、いつか自分もこの会に出席す

るんだという希望のようなものをもって年を重ねてきたと思います。その節目を目標にしている方も多いと思います。補助メニューも必要だと思いますが、生きてきた証のような敬老会。たぶん出席できない方も、思いは強いと思います。自分の人生をふりかえり、社会への恩返しの気持ちも新たにされるのではないかと考えます。高齢化で予算がひっ迫するのかもしれませんが、排除するような考えはやめてほしいです。

- 身体的に出席できない人もいるので、記念品の配布だけでもよい。
- 敬老事業以外の高齢者福祉も必要で、別途やる必要はあるが、敬老事業は必要である。
- 見守り、体操などはやっております。高齢者の割合が多く、困っている。ただうちは団地ですので、声掛けや姿（行動）はしやすいです。
- 主催者、出席者とも現状で満足している。
- 敬老者も行事担当者も一緒に祝う事に意義あり。子供会・中学生の代表を選出して祝っている。子供たちに限りない人生を大切に全員で共有する。
- 記念品だけでよい。コロナ株が不安がある。
- 1,敬老会は女性部が中心になって計画から運営まで対応してもらえる唯一の行事であること。又交流の場となり他への波及効果が見込まれる。2,青少年育成部の子供が参加してくれておりこの繋がりを大事にしたい。3,記念品を楽しみにしておられる。(補助金を充てている) 4,新たに、高齢者福祉の事業をあげても担い手を見つけるのは大変であるし、最終的には町内会の限られた役員の負担になるだけ。負担増は役員を敬遠される要因にもなり町内会の体制づくりが難しくなる。
- 年1回顔を合わすことによって現況がわかる。
- 地域コミュニティが希薄になっている状況を考えると、年1回の集まりは大切だと思います。
- 昨今はコロナ禍により、2年間敬老祝賀会を中止し、記念品配布を行った。年に一度の敬老祝賀会を楽しみにしている対象者は多く、今後も高齢者の楽しみが失われることの内容、また内容の充実が損なわれることのないよう、現行制度の継続及び補助金の下方修正がされない事を強く求める。
- アンケートの説明資料に不明な点あり。他市の補助金に対する取り組み内容も示してほしい。
- 変更しなければならない理由がない
- 変更内容が思い浮かばない。
- 一年に一度の敬老会を楽しみにしておられる方がおられるから。
- 特別養護老人ホームの利用者の場合、地域での補助メニューだと出席が難しい。
- 具体的な他の提案がない状態では現行制度の継続を選択するしかない。現行よりも魅力ある提案であれば検討する。
- 利用をしない人もいると思うので、全員対象の方がいいと思います
- 高齢者に敬意を表し、長寿を祝うことは、社会にとって重要だと考えています。
- その節目として敬老の日に敬老事業をすることが適切で、福祉全般とは切り離しておくのが良いと考えます。
- 高齢者向けの他の事業に対する補助はあると思っている
- 敬老事業以外の用途活用になると、敬老に対する根本定義（祝日法 敬老の日の「～老人を敬愛し長寿を祝う」）が揺らぐため
- 一町だけでは、人数が少ないので、現在は3町で実施しています。
- 敬老事業で新しいことをすると嫌う方もいます。わが町内では現状の敬老事業に満足しておりますので現状維持をお願いします。"

- 敬老事業以外の用途のイメージがつかめない。例えば、見守りをする事で喜ばれるかが不明。現在でも敬老会には地元の小学生が参加しており、アトラクションで和太鼓演奏、空手披露、地元コーラスグループなどが参加して世代間交流もしているため。
- 一人暮らしの方は祝ってくれる家族がないか疎遠だから。せめてそのようなものがあればうれしいのではないか。
- 費用がかかるのに他のこともするのは難しいのではと思う。
- 全国規模で行われており、対象が期待していると思う。
- 町内会役員の負荷をこれ以上かけたくない
- 1. 社会福祉協議会関係の事業と重複することが多くなるのではないのか。例えば「サロン活動」とか。
2. 新しいメニューに対応できる人的余裕がない。"
- 唯一の交流の場になっているから。
- 敬老会開催する事業費と補助金金額が大体釣り合っていて開催ができています。できたらもう少し多めの金額が欲しい。
- 記念品だけは渡したい。
- 見守りにも繋がると思います。"
- 制度が変わると例として、75才が80才になると次年度75才になる人が敬老会等に出席できなくなるから。
- 敬老会には様々な年齢層が集まる町民が顔を合わす場として、来場が難しい方は個別に訪問して記念品を渡すときに顔合わせができる場として、習慣が根付いており敬老事業として継続したい。
- もし補助金を敬老事業以外にも使うことになると、事業継続のために町内会費から捻出することになり、他の町内事業にシワ寄せが来る。"
- 敬老者への感謝と長寿をお祝いするためには補助金制度は必要と考えます。
- 年々高齢者が増加する一方介護福祉士は増えず負担が増す
- 大変意義があり親睦が取れるから。
- 現行制度はそのまま維持し、その他の活動は個々の裁量で行っているのが実情である。
- 敬老事業以外の高齢者福祉の用途は町内会費で対応しているため。
- 見守りは、近所の人々または、民生児童委員が行っており、健康作りは、社協のふれあい活動一町内会の活動（百歳体操、ウォーキング大会他）を行っている。敬老会は、その事業に特化して行われるべき行事だと考えます。
- 現在のままでいいと思う。
- 少数ですが敬老祝賀会を楽しみにしている方もおられます。これから対象になられる方で参加人数が増える事が期待されます。また、不参加の方には記念品を配る事で、状況等を確認できます"

3-3 その他

- 記念品配布のみで良い
- 年金生活なのでクレジットカードがよい。
- 【無料交通券】デマンドタクシー券、民間タクシー券
- 敬老会のセレモニーはせず、記念品のみ配布する
- 行政の決定に沿って実施します
- 昔は敬老会が楽しみであったと思われるが、現在では何でも欲しい物は手に入る時代になりました。ということは、敬老会が自分の生き方に合わないと思われます。その人に合うメニューを作れば参加者も多いのではないかと思います。例えばカラオケ敬老会、ジャズを聴く敬老会、ゲートボール敬老会等をメニューにして希望を取れば参加希望者が増えるのではないかと思います。
- 少子高齢化、人口減少が増大のなか、特に敬老事業を特視する必要性はない
- 記念品だけです
- コロナ渦にあり、敬老会は開催できないので廃止し、高齢化を阻止するために子育て支援にむけるべき。
- サロンを進展させ現行の補助金プラス程度
- よくわからない、このアンケート事態がよくわからない
- 環境整備特に、市道の整備・修理・害獣被害に積極的に取り組み補助をする
- 敬老会を縮小すると「見守りや健康づくり」にもマイナス方向で作用すると思います。現行の敬老会は必要と考えます。
- 高齢者福祉の用途に補助金を使うことは良いと思うが、町内会が主導してなにかを行うことは難しいと感じる。イベントや集まる場所作りよりも、直接の生活の困り事に支援が必要ではないか。最近出張スーパーが来てくれるようになり、助かっているという声を聞くので、例えばそういう事業に補助金で支援を行い、山間部まで行ってもらったり、回数を増やしてもらったり、店頭と同じ価格で買えるようになると、企業も高齢者も助かるのでは
- 他の用途も難しい。地域活動も担い手がない。高齢者福祉だけで検討せず、地域センターをつくり、地域の支援をする体制づくりをしてほしい。
- 長寿祝いにする。75歳以上全員とせず、例えば喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、紀寿等長寿祝い